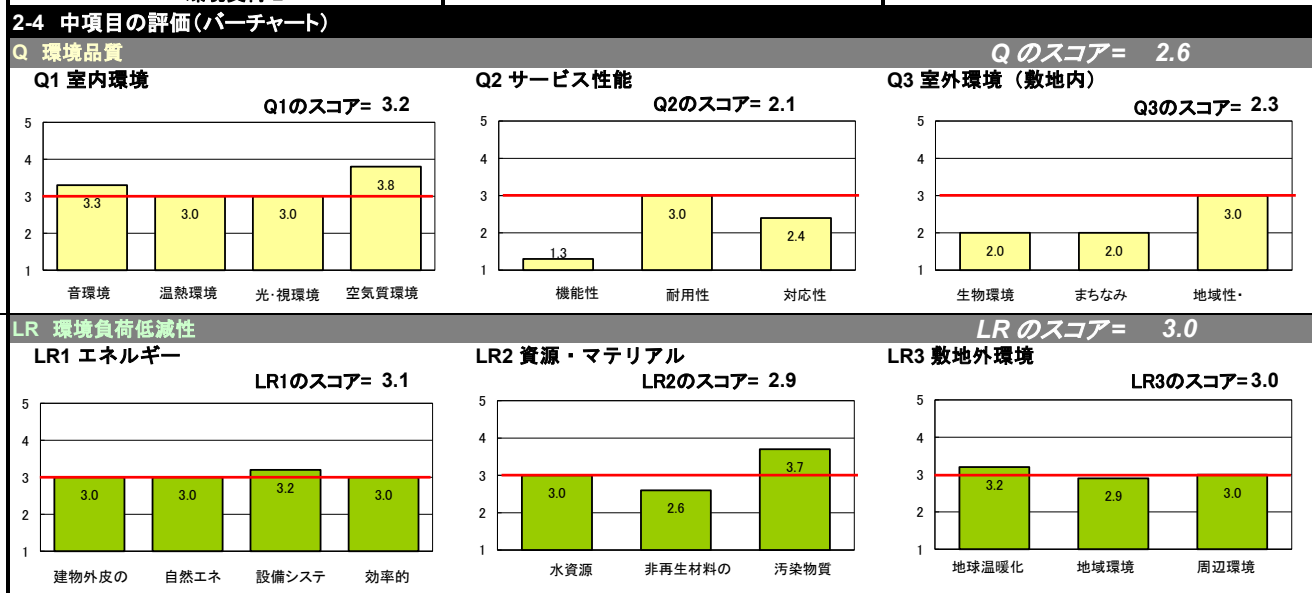
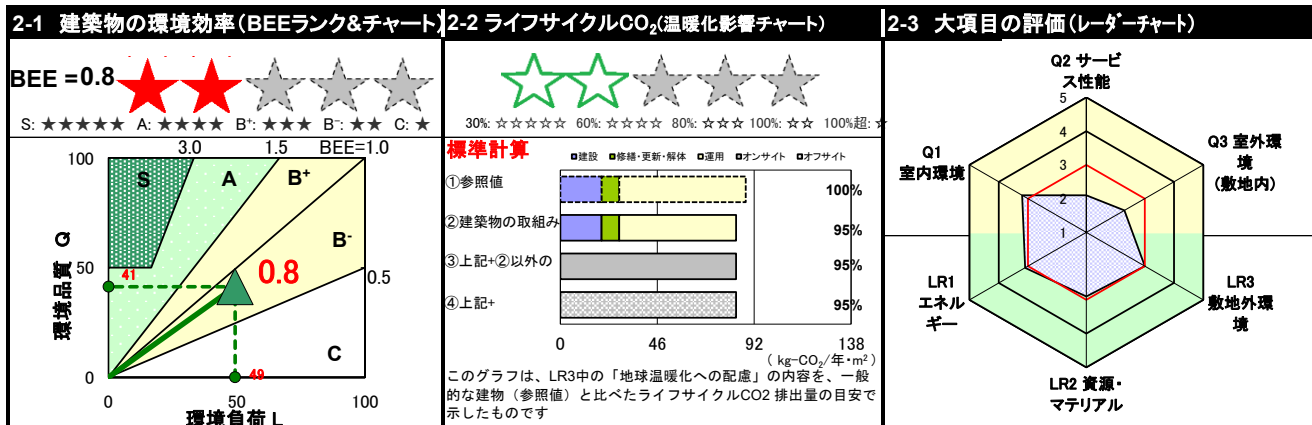




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜真金町マンション 新築工事	階数	地上10F
建設地	神奈川県横浜市中区真金町1丁目11番1、13	構造	RC造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年6月23日
敷地面積	641 m ²	作成者	(株)ARG 一級建築士事務所 有賀 彰
建築面積	386 m ²	確認日	2025年6月23日
延床面積	3,361 m ²	確認者	(株)ARG 一級建築士事務所 有賀 彰



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
BEI=1.0以下を計画し、付加価値を設けた	0	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F★★★★の建材を使用し、環境に配慮した計画とした。	配管の主要な用途上位3種の、2種以上のBを使用しEは不採用	特になし。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱等級4以上を取得予定であり、高い断熱性能のある建築材を採用し建物の熱負荷抑制に配慮した。	特になし。	ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要		<集合住宅>		受付日 2025年6月25日													
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。				建物名称 (仮称)横浜真金町マンション 新築工事													
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving		重点項目への取組(5点満点)		【省エネルギー性能】	3												
■省エネルギー性能																	
この建物の設計一次エネルギー消費量		12	%削減														
		<table><thead><tr><th colspan="2">再エネなし</th><th colspan="2">再エネあり</th></tr></thead><tbody><tr><td>削減率</td><td>12%</td><td>削減率</td><td>12%</td></tr><tr><td>BEI値</td><td>0.88</td><td>BEI値</td><td>0.88</td></tr></tbody></table>				再エネなし		再エネあり		削減率	12%	削減率	12%	BEI値	0.88	BEI値	0.88
再エネなし		再エネあり															
削減率	12%	削減率	12%														
BEI値	0.88	BEI値	0.88														
基準一次エネルギー(100%)																	
■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)																	
健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community		重点項目への取組(5点満点)		【健康・安心】	3												
■室内環境対策 (⑤外皮性能)																	
◆断熱等性能等級		等級4	(相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。														
■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)																	
■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)																	
◆工夫の有無		なし															
防災への配慮 (R) Resilience		重点項目への取組(5点満点)		【防 災】	3												
■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)																	
主要な用途上位3種の、2種以上のBを使用しEは不採用																	
地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape		重点項目への取組(5点満点)		【地域・まちづくり】	2												
■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)																	
太陽光発電などの導入		環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)															
エネルギーマネジメントシステム導入																	



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)横浜真金町マンション 新築工事

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		<非住宅>	<集合住宅>							
Q 建築物の環境品質				—	—	—	—	2.6		
Q1 室内環境				—	0.40	—	—	3.2		
1 音環境	1.1 室内騒音レベル			4.0	0.15	3.1	1.00	3.3		
	1.2 遮音			3.0	0.50	3.0	0.50	—		
				5.0	0.50	3.2	0.50	—		
	1	開口部遮音性能		5.0	1.00	5.0	0.30	—		
	2	界壁遮音性能		3.0	—	3.0	0.30	—		
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	—	1.0	0.20	—		
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	—	3.0	0.20	—		
	1.3 吸音			3.0	—	3.0	—	—		
2 温熱環境	2.1 室温制御			3.0	0.35	3.0	1.00	3.0		
	1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.50	3.0	0.50	—	
		2	外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境	⑤外皮性能	3.0	0.63	—
		3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38	3.0	0.38	—
	2.2 湿度制御			3.0	—	—	—	—	—	
	2.3 空調方式			3.0	0.20	3.0	0.20	—		
3 光・視環境	3.1 昼光利用			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0		
	1	昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	3.4	0.30	—	
		2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	—	—	5.0	0.50	—
		3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	—	—	1.0	0.30	—
	3.2 グレア対策			3.0	1.00	3.0	0.20	—		
	1	昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.30	3.0	0.30	—	
4 空気質環境	3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	—		
	3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25	—		
	4.1 発生源対策			3.6	0.25	3.8	1.00	3.8		
	4.2 換気			4.0	0.60	4.0	0.63	—		
		1	化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	—
	5 サービス性能	4.3 運用管理			3.0	0.40	3.6	0.38	—	
1		換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	—	
		2	自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	—	5.0	0.33	—
		3	取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	—
4.4 CO ₂ の監視				—	—	—	—	—	—	
		1	CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	—	—	—	—
2 喫煙の制御			3.0	—	—	—	—	—		
	1	喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	—	—	—	—	
Q2 サービス性能				—	0.30	—	—	2.1		
1 機能性	1.1 機能性・使いやすさ			2.4	0.40	1.0	1.00	1.3		
	1			3.0	0.40	1.0	0.60	—		
		1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	—	3.0	—	—
		2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	—	1.0	1.00	—
	3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	—	—	—	
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	1.0	0.40	—		
	1			3.0	—	1.0	0.50	—		
		1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	—	1.0	0.50	—
		2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	—	—	—	—
	3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	—	
	1.3 維持管理			3.0	0.30	—	—	—	—	
	1			3.0	0.50	—	—	—	—	
		1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	—	—	—
	2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	—	—	—	
2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.30	—	—	3.0		
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.50	—	—	—	—	
		1	耐震性(建物のこわれにくさ)	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	—	—	—
	2	免震・制震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	—	—	—	
	2.3 部品・部材の耐用年数			3.4	0.30	—	—	—	—	
		1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—
		2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—
		3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	—	—	—
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	—	—	—
		5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	—	—	—
	6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—	
	2.4 信頼性			2.4	0.20	—	—	—	—	
	1			1.0	0.20	—	—	—	—	
		1	空調・換気設備	防災	⑮信頼性	2.0	0.20	—	—	—
		2	給排水・衛生設備	防災	⑮信頼性	3.0	0.20	—	—	—
		3	電気設備	防災	⑮信頼性	3.0	0.20	—	—	—
		4	機械・配管支持方法	防災	⑮信頼性	3.0	0.20	—	—	—
	5	通信・情報設備	防災	⑮信頼性	3.0	0.20	—	—	—	
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり			3.0	0.30	2.3	1.00	2.4		
	3.2 荷重のゆとり			—	—	1.6	0.50	—		
		1	階高のゆとり		3.0	—	2.0	0.60	—	
		2	空間の形状・自由さ		3.0	—	1.0	0.40	—	
3.3 荷重のゆとり			3.0	—	3.0	0.50	—			

	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	-
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	-
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.3
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20	-	-	3.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		3.2	0.50	-	-	3.2
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		3.2	1.00	-	-	-
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング	3.0	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	-	-	-	-
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	-
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1	節水	3.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
	2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10	-	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20	-	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20	-	-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.20	-	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.10	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	4.0	0.20	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30	-	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避	4.0	0.70	-	-	-
	1	消火剤	-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)	5.0	0.50	-	-	-
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1	大気汚染防止	3.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.50	-	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	2.7	0.25	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-
	3	交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	-
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	-
	2	振動	-	-	-	-	-
	3	悪臭	-	-	-	-	-
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40	-	-	-
	1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	-
	2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-
	3.3	光害の抑制	3.0	0.20	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目			-	-	-	-	-
<事務所用途>			-	-	-	-	-
知的生産性向上への取組			-	-	-	-	-
<住宅用途>			-	-	-	-	-
健康と安心			-	-	-	-	-
	1	化学汚染物質の対策	3.0	-	-	-	-
	2	適切な換気計画	3.0	-	-	-	-
	3	結露・カビ対策	3.0	-	-	-	-
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	1.0	-	-	-	-